會報
第一四〇號
日本山岳會

會員總會

六月廿二日午後交通博物館で通常總會を開いた。議事左の通り

一、昨年度事業の報告と今年度事業計畫の説明（松方理事）

一、昨年度決算の報告と今年度豫算案の説明（藤島理事）

報告はいずれも出席會員の承認を得、本年度の豫算案も異議なく通過し議事を終つた。

總會終了後講堂で一九三六年の立教大學山岳部のナンダコート遠征隊のスライド映寫、説明は當時の隊員である濱野理事が當つたが久し振りのスライドの會でもあり又久し振りのヒマラヤの物語でもあり、極めて愉しい集りであつた。

ウエストン記念碑

記念碑の復舊式は豫定通り六月十四日上高地で行われた。東京からの參列者は約三十名、松本方面からの參列者を合せ七十餘名という盛會だつた。幕を除くに當り槇、松方兩會員ウエストン師について追憶を語り挨拶に代えた。夜は小梨平で火を圍んで閑談これを久しうした。この記念碑の復舊については昨年來現地官民各機關の一方ならぬ配慮を煩わして來たが今回は殊に復舊の工事その他について清水組の一方ならぬ協力を得萬事が極めて順調に運んだ。洵に感謝にたえない。

ウエストン記念講演會

六月十六日松本のセントラル座で開かれた。時あたかも信濃支部發足と前後し來會者堂に滿つる盛況だつた。會次第次の通り

一、信濃の自然に就て　横山有恒

一、ウエストン師を憶う　松方三郎

一、ナンダコート登攀　竹節作太

竹節氏の話のあとで毎日新聞社所有のナンダコート登攀記錄映畫を映寫した。セントラル座は松本の信濃新聞の所有に屬するが、當夜はこの會のために無料で提供されたものだ。

國民體育大會

十月下旬から十一月初にかけて金澤で開かれる第二回國民體育大會の登山部門については石川支部が專らその準備に當つている。新雪下の白山登山、加越國境の醫王山の集中登山並に講演會が行事に數えられているが他地方からの參加者は準備の都合上九月中に石川支部まで連絡して頂き度い。

塚本主事急逝

熱があるといい乍ら六月廿日近くまで會の事務をとつていた塚本主事は病院に擔ぎこまれた時既に意識なく入院數日にして廿五日長逝した病名はチブスだつたがまことに哀悼にたえない。

戰爭中日本山岳會の孤壘を守つたのは塚本さんだつたが、終戰後の混亂時代に會報の復刊を敢行したのも塚本さんだつた。戰後の會の再出發にあの會報の復活がどんな役割を演じたかは會員は誰もよく知つているが、今日の日本山岳會は全く塚本さんの奮闘に感謝すべき多くのものを持つている。言葉通り倒れるまで頑張つた所も塚本さんらしいが、何とか暫く手を打つたならばこんなことにならなくてすんだのではあるまいかと、今だにそれが殘念だ。事務所が整わないので事務書類一切をルックに入れて東京の町を歩いていた故人の姿はいつまでも多くの會員の眼から消えまいと思うが、亡くなるまでバッヂのことをうわごとに云つていたという塚本さんの靈も永く會に止ることだろう。

遺骨は八月に郷里に歸つた。

尾瀨沼の水力發電

戰爭前からの問題である尾瀨の發電計畫は大體次のように落着くとのことだ。最初の話は尾瀨ケ原までを水の下にしてその水を只見川に落す大計畫だつたが、今回決定を見たものは湯水期の發電用水を確保するため尾瀨沼の湖面を一米だけ上げるというものに縮少されている。そしてその水を三平峠の下を貫く七〇〇米の水道で片品川に落す計畫なので尾瀨の風致に影響を與えるようなものではないとのことだ。計畫の最後的決定に先立つて行つた現地調査には武田會長も參加した。

役員會

◇六月二日（體育館）藤島、松方入澤、谷口、濱野出席、東京支部より中屋參加

一　會と支部との事務分擔並に連絡

一、ウエストン記念碑に關する件

一、會員總會に關する件

一、「山岳選書」の始末報告

一　各支部近況報告

◇七月三日（體育館）藤島、松方谷口、濱野、入澤出席

一、ウエストン記念碑復舊報告

一、塚本主事死去に關する報告並に善後策の決定

一、雜誌「山」に關する經過報告

一、各支部の近況報告

◇八月七日（體育館）石川、藤島松方、谷口、濱野出席

一、會報現狀の報告

一、事務室整備の件

一、信濃支部設立の件

一、各支部の近況報告

一　九月以降の事業計畫

支部會員へ

◇會員章に番號を打つのは止めました。會員番號は會員證に書込んであります。

◇終身會員の制度は變つていません。たゞ會としては情勢の安定するまでは新しい終身會員を作らぬ方針です。一方終身會員の側からは現下の事情からして普通會員同樣年會費を負擔してもよいかどうかとの申出を受け、又現に年會費を送つて下さる終身會員もあります。會はその好意を大いに感謝していますが、これは終身會員の側の發意によるものであつて會からはこの件について何も意思を表明していません。

◇送金は出來るだけ小爲替で願います。振替は時間がかゝつて實用になりません。振替の場合は手數料一圓五十錢を加算して御送金下さい。

◇塚本さんの急逝のため會の事務が大いに停頓しました。支部や個々の會員に色々御迷惑をかけたと思います。誠に恐縮です。どうやら一應あとの仕末もつきましたがまだ御返事漏れや何かあるかと思います御注意下されば幸いです。

◇東京支部　東京都千代田區神田駿河臺岸體育館内

◇關西支部　大阪市北區堂島上一丁目日本貯蓄銀行　階

◇越後支部　新潟市祝町四八八八藤島玄方

◇石川支部　金澤市五寶町九一磯野三郎方

◇信濃支部　松本市東町二丁目下村雅司方

東京支部

◇六月十七日から廿日まで交通文化博物館で、同館後援の下に、夏山講習會を催した。塚本氏の寫眞の話や武田會長の高山植物の話には幻燈を使つたが、氣象については特に和達氣象臺長の來講を得連夜非常な盛會だつた。

◇六月廿一日から七月五日まで毎日正午から午後五時まで、有樂町の交通公社で登山相談所を同社後援の下に開いた。資料集めには東鐵、交通新聞社、交通公社各方面から絶大な協力があつた。相談には支部委員が交替で當つたが熱心な相談者の多いことは驚く程だつた。

◇七月十二日早朝富士見驛に集合入笠山に登つた。十三日は分水莊の尾崎喜八氏を訪れ午後三時の上り列車の出發まで鳥をきゝ花をたずね樂しい小旅行だつた。山上、赤尾、岡本、坂倉、河田、村井參加、富士見では尾崎氏はじめ中山眞市氏高橋達郎氏の一方ならぬ御世話になつた。

◇東京都主催奥武藏トビノ巢平キャンピング（七月五日）には支部から委員原、小笠原兩氏が參加して講演をした。

◇支部委員

【實踐部】 小笠原勇八、原　全敎　大神田軍治、天野誠吉、森田達雄　澤田武志、大沼泰藏、坂倉登喜子　今井喜美子、川森時子

【研究部】 茂木慣雄、石原憲治、吉澤一郎、渡邊公平、長谷川勇、林　正夫、長越成雄、岩崎二郎

【企畫部】 塚本閑治、町田立穗、川崎吉藏、西山　登、寒竹　進、森　貫一、稻垣久治郎、大神田、長越、天野、岩崎、澤田、林、大沼、森田、長谷川

【資材部】 村松　巖、小西民治、寒竹

【總務部】 山下一夫、石原　巖、中屋健弐、杉原泰子、村井米子、西山、森、稻垣

【會計】 中屋、杉原

【監事】 河田　横、早川義郎

關西支部

◇七月十日から月末まで大阪美津濃で山岳展覽會を開き、併せて登山案内所を設けた。案内所のためには島々から奥原正明、北城から降旗勘治兩君が來阪し來訪者の相談に應じ　兩君不在の時は支部委員が交替で質問に應えた。

◇支部長と支部委員

支部長　篠田軍治

支部委員

【渉外】 池田孝韭、大橋秀一郎、土田新一

【圖書】 梶本德次郎、泉　隆次郎

【庶務】 井上　奬、植田陽三、鷲池雅司

【編輯】 松島春子、淺野清彦、梶本

【企畫】 木田初子、鹽野良之助、土田　泉

【會計】 大橋

【監事】 仲西政一郎、太田　敬

石川支部

◇四月からの「山岳講座」は毎回盛會だつた。來會者數は總計で數百名に上つた。阿部、磯野、鏡木玉井三氏はラジオ放送「趣味の山岳」のためそれぞれの題目について放送をした。

◇六月廿五日から廿九日まで白山振興會主催の「白山展覽會」を後援し「山岳相談所」を擔當した。（會場　大和百貨店）

◇體育會主催の八月のスポーツ講習會には山岳の部も豫定されていたがこの方は色々の事情から見送り、全力を秋の國民體育大會に集中することにした。（別項參照）

◇支部長支部委員

支部長　阿部壯次郎

支部委員

【會計】 小原庄作、中田良平

【庶務】 西野十郎、孫田三郎、福久米之助

【指導】 磯野三郎、上田喜作、藤井安司　立野清一

【圖書】 津田與志雄、二塚良治、青木　繁

【事業】 園部六三郎、吉川信雄　柳池信行

【學校連絡】 野中　昂、栂　茂雄

信濃支部

◇六月廿二日松本で支部設立總會を開き委員並に規則を決定した。役員は伊那、諏訪、中信、木曾谷東信、北信、安曇、會社學校の八分區から定數を選び、常任委員もそれに應じて配分する方針をとつた。

◇支部長及び常任委員

支部長　横　有恒、常任委員　百瀨慎太郎、平林武夫、小池文雄、小穴信一、下村雅司、花岡　保、松本　昇、向山敬治郎、馬場忠三郎、湯淺充泰

支部會費　金貳拾圓

事務所　松本市東町二の一一二〇　下村雅司方

越後支部

◇六月二十八日から三十日にわたつて越後支部の創立總會と新潟縣登山講習會とが苗場山で行われたこの催しは參加申込者が多かつた爲め登山團體を學校關係者の二班に分け、廿九、三十兩日にそれぞれ苗場に登つた。最初の豫定は頂上で講習會を開くことになつていたが、霧のため中止した支部の發會式は廿九日苗場ヒュッテで行い引續いて講談會に移り、高頭支部顧問より「大平成先生と苗場山」冠松次郎氏より「溪から山へ」の講演があつた。第二日は冠氏「山岳自然美の保護と開發」について講演し、講演會の後では懇談會が催された。參加者は二班合計約百名に及んだ。

◇支部長と支部委員

支部長　藤島源太郎

支部委員　星　光一、北村嘉助、佐久間淳一、川崎堅太郎、青山五郎、吉田良次

監事　中村文治郎、笠原藤七、内田　實

顧問　高頭仁兵衛

圖書係から

岳人　五月から創刊された「岳人」は既に三號に達した。發行所は京都市北白川泉大北門前白井書房内、岳人社。紙の事情印刷の困難等々から考え果して商賣に緣遠い山仲間のかゝる計畫がうまく實現するかと心配した向もあるだらうが、雜誌も三號まで漕ぎつければ先ず大丈夫。但し部數の關係上關西以外では店頭に出る機會が少いから希望者は豫約する必要がある。

頒價は一、二、三號が八、十、十二とそれぞれ違つているから豫約者は概算額を小爲替で送金する他ないと思う。

山と溪谷　第百號が出た。敬祝にたえない、

山・紀行と隨想　大島亮吉君の遺著「山」（岩波版）から研究の部を除いた大部分が集錄され、それに「山岳」に出た遺稿の「峠」を加えたものだが九月中には發刊の豫定、B6版二百頁位。昨年來の懸案の一つが、これで實現することになつた。發行所は杉並區阿佐ケ谷四の九五八好日書房

山岳　久しく休刊中の「山岳」發刊の見當がついたのでいよ〳〵本格的準備に入る。編輯には島田巽氏を委員長とする編輯委員會が當るが次の會報で詳細の報告が出來ると思う。

新入會員

番號	氏名	住所
二三九三	疋田澄雄	八幡
四	安西政雄	〃
五	堀内仁	盛岡
六	廣瀬文雄	神戸
七	伊藤康介	東京
八	谷内清	西宮
九	日本放送協會山岳部	
	代表 武田進	東京
一四〇〇	土倉九三	京都
一	坂本濱治郎	兵庫
二	樋口榮一	三條
三	望月力	〃
四	田中照男	〃
五	清水信一	〃
六	松田義雄	東京
七	助川喜雄	土浦
八	廣川禮介	新潟縣
九	海野治良	長野縣
二四一〇	森谷周野	新潟縣
一	平重雄	八王子
二	松本俊夫	東京
三	山藤邦臣	〃
四	中村靜雄	〃
五	山室勇夫	〃
六	金子泰助	〃
七	高野勝太郎	〃
八	長越成雄	〃
九	河本博	〃
二四二〇	横田利久	東京
一	吉田正	横濱
二	齋藤宗藏	〃
三	常盤一雄	福島縣
四	宗田淳	新潟縣
五	小柳一郎	東京
六	岡田三藏	長野縣
七	中野貞治	東京
八	手塚一雄	〃
九	瀧口清夫	船橋
二四三〇	玉村孝三	福井市
一	加藤雍太郎	東京
二	國際外國語學校山岳部	
	代表 工藤和夫	〃
三	花井薫	長野縣
四	水産講習所山岳部學生	
	代表 河野弘	東京
五	佐藤信男	〃
六	小野芳生	〃
七	小林久吾	〃
八	戸田英夫	〃
九	吉田武彦	〃
二四四〇	四谷龍胤	芦屋
一	永谷誠宏	名古屋
二	三澤義人	長野縣
三	松原慶太郎	吹田
四	杉原邦太郎	山梨
五	柴田耕造	大阪市
六	柳澤一男	長岡
七	細川法子	大阪市
八	龜田與三次	石川
九	中込富士雄	山梨
二四五〇	山越健司	東京
一	福田光與	愛知
二	永田昇司	東京
三	青木正美	〃
四	佐伯富夫	富山縣
五	松本條太郎	東京
六	濱村佐次郎	滋賀
七	村井實	名古屋
八	港叶	鳥取縣
九	長谷田茂雄	東京
二四六〇	小林義雄	〃
一	長津一郎	〃
二	吉田貞次	新潟縣
三	安達富市	〃
四	相崎富一	〃
五	黑崎誠司	〃
六	松井仁一郎	〃
七	高橋好道	横濱
八	篠崎實雄	戸畑
九	内田忠夫	山梨
二四七〇	鹽田保美	高知市
一	多田薫	川崎
二	石原達夫	東京
三	菅原久米藏	山形縣
四	谷本勝一	大阪市
五	丸山齊	〃
六	渡邊嘉男	東京
七	西岡喜代一	大阪市
八	中埜愛三	愛知
九	宮田喜惣次	新潟市
二四八〇	齋藤榮一	新潟縣
一	伊達忠雄	鈴鹿
二	太田孝	東京
三	山口文治郎	大阪
四	前川登美男	宮崎
五	尾崎正典	愛知
六	青山隆三	大阪
七	坂脇善次	熊本縣
八	金吹實	北海道
九	橋本逸郎	大阪
二四九〇	轟木一二三	佐賀縣
一	小林新太郎	北海道
二	深石明男	長野縣
三	野間始	福岡縣
四	中馬克己	〃
五	中山昭一	三島
六	松本市太郎	東京
七	村山雅美	〃
八	新潟醫大山岳部	
	代表 永野章	新潟
九	中村久男	〃
二五〇〇	土岐元春	〃
一	山口三郎	〃
二	高橋賢一郎	〃
三	山田義男	東京
四	加藤記一	多治見
五	佐藤金一	新潟縣
六	田中明	倉敷
七	三角久光	札幌
八	降旗渡	長野縣
九	荒川鐵朗	鹿兒島
二五一〇	末吉秀吉	〃
一	有木功	〃
二	縣立松任農學校山岳部	
	代表 磯野三郎	石川
三	川淵義光	下關
四	菊池徹	香川
五	石井武二	東京
六	倉澤文平	新潟縣
七	村山圭介	京都
八	渡邊孝輔	新潟縣
九	中田三郎	富山市
二五二〇	古家朝次	大阪
一	石田嘉一	熊本市
二	中溝悅功	横濱
三	藤井貞三	船橋
四	中川晃一	東京
五	中尾正武	神奈川
六	加藤秀木	福岡市
七	柴藤俊輔	〃
八	村上巖	〃
九	浦賀一夫	東京
二五三〇	若林三郎	富山市
一	熊野純男	北海道
二	吉森辰美	岡山縣
三	杉本榮造	東京
四	大橋克也	宮城
五	山崎正伸	福岡縣
六	山本豊輝	堺
七	淺野滿三	愛知
八	小窪佐太郎	大阪
九	平川市三	鹿兒島
二五四〇	宮下雅男	新潟縣
一	藤井運平	東京
二	大井彰	廣島市
三	岡本朝伊治	高山
四	鎌田榮	北海道
五	杉山育造	岐阜市
六	田中丸吉三郎	熊本市
七	昭和電工大町工場山岳部代表 山口茂	長野
八	綠川矢郎	福岡市
九	金子信恒	東京
二五五〇	鈴木哲夫	大阪
一	大塚勤	東京
二	吉澤康惠	埼玉
三	山本蒼水	東京
四	内藤野七	新潟縣
五	秋月良造	大阪
六	小川節雄	新潟縣
七	相崎勇吉	〃
八	田澤亥久男	〃

九 梁取 耕平 新潟縣
二五六〇 佐藤 久 〃
一 小瀧清次郎 福島縣
二 專修大學山岳スキー部
代表 富田忠夫 東京
三 木下 是雄 豐川
四 上野 久吉 福岡
五 福島 一馬 久留米
六 塚本 光 福岡縣
七 舟木 隆 釧路
八 溪稜倶樂部 東京
九 池島 梯吉 鹿兒島
二五七〇 山崎 增男 新潟縣
一 東寶演劇部山岳部東京
二 新保雄太郎 新潟縣
三 高橋 甲三 〃
四 川島 尙 新潟市
五 大谷 衞 廣島縣
六 孫田 三郎 金澤
七 吉川 信雄 〃
八 羽田 俊一 〃
九 松谷 博 石川
二五八〇 二塚 良治 金澤
一 西野 十郎 〃
二 福久米之助 〃
三 中田 良平 〃
四 瀧田 外男 〃
五 殿村 長 〃
六 津田與志雄 〃
七 棚池 信行 〃
八 釜林 潔 石川
九 中村 良子 金澤
二五九〇 中村久米人 〃
一 金澤美術工藝專門學校
山岳部代表 栂 茂雄 金澤

二 和田 貞雄 金澤
三 福增 正吉 〃
四 小原 庄作 〃
五 園部六一郎 〃
六 川口 久雄 〃
七 黑田喜久次 〃
八 沼田啓太郎 〃
九 田邊 庄一 〃
二六〇〇 津田 利夫 金澤
一 第四高等學校旅行部
代表 野中 昂 〃
二 西川 博 〃
三 本田 穰 石川
四 白山倶樂部
代表 上田榮一 金澤
五 青木 茂 〃
六 上田 喜作 石川
七 坂上 六郎 千葉市
八 山本 隆敏 福岡市
九 茂木 愼雄 東京
二六一〇 鈴木 勇 〃
一 入澤 文明 〃
二 山下 一夫 〃
三 加藤 千里 〃
四 岩瀨 圭一 〃
五 福井 正吉 〃
六 大迫 尙一 〃
七 伊藤直三郎 〃
八 原 一三 〃
九 吉田 玄馬 〃
二六二〇 堀內 義久 〃
一 入澤 該吉 〃
二 藤田 端 〃
三 秋本 常夫 〃
四 橘田 濟美 〃

六 香川 敬一 東京
七 諏訪 幸夫 〃
八 山田 英三 〃
九 山田 昭 〃
二六三〇 松浦謙之助 〃
一 島崎 一男 〃
二 森 松男 〃
三 田中 浩 〃
四 牧田 豊 〃
五 百田 武藏 〃
六 小川 博 〃
七 青山 勇 〃
八 豊田 一郎 〃
九 櫻井 英夫 〃
二六四一 椎木 茂男 〃
二 山內 多木 〃
三 池谷 欽一 〃
四 佐藤 連平 〃
五 柳澤 義之 〃
六 永田傳三郎 〃
七 江口 芳樹 〃
八 岩瀨 浩 〃
九 天野 誠夫 〃
二六五〇 村上 善彥 〃
一 渡邊 義武 〃
二 有我 勝男 〃
三 青木美喜雄 〃
四 江口 吉男 宮城
五 柴田 均二 秋田縣
六 新寺 義雄 山形縣
七 高橋 友次 新潟縣
八 涌井 嘉瑞 〃
九 高澤 淨 長岡
二六六〇 宮島 孝一 新潟縣
一 長澤 敏朗 〃

二 三宅 信道 廣島縣
三 中條 康裕 東京
四 石戶 毅 〃
五 柳井 春男 〃
六 柳井 隆夫 〃
七 的場 大祐 藤澤
八 藤齋 治 濱松
九 石河 利太 奈良縣
二六七〇 笹倉 博 市川
一 細川外茂治 金澤
二 坂本 仙治 〃
三 白山振興會
代表 紀 俊嗣 石川
四 馬場 勝嘉 金澤
五 金森正四郎 〃
六 戶部 元裕 〃
七 桂田 利吉 東京
八 內山 辰雄 〃
九 島村 爲男 豊中
二六八〇 武者 虎司 靜岡縣
一 皆川 勇 新潟市
二 松本 昇 松本
三 伊藤 正一 〃
四 長野源太郎 今治
五 赤羽 治郎 松本
六 松本醫專山岳部
代表 榎本孝行 〃
七 室崎佐喜男 新潟縣
八 吾妻 正吉 長岡
九 井口 眞司 新潟縣
二六九〇 淺野 豊示 〃
一 竹內 隆雄 新潟縣
二 齋藤 進一 〃
三 佐藤 悠 三條
四 石丸 榮治 〃

五 關口 得郎 長野縣
六 越野 修平 新潟縣
七 岩間 升 山梨
八 古屋 博 甲府
九 鈴木喜太郎 〃
二七〇〇 合木 武夫 長野縣
一 穗苅三壽雄 松本
二 高山忠四郎 〃
三 花岡 保 〃
四 牛山 三朗 長野縣
五 松平 久三 金澤
六 安武 忠晴 下關
七 杉本 壽正 〃
八 北野 榮三 〃
九 吉秋 實 〃
二七一〇 竹村幸比古 〃

會員章

從前のものと同質の美事な會員章が出來上りました。紛失された方、新入會の方は御申込下さい。送料共金二十五圓です。

會費の拂込

會費の件に關しては會報前號に詳細に說明してありますが、本年度會費三〇圓をまだ拂込まれていない會員は至急御送金願います。支部のある地域の會員は支部費をも併せて支部へお拂込下さい。

昭和廿二年九月十日發行
東京都千代田區神田駿河臺四ノ六
發行所 日本山岳會
電話神田 一九五九番 一二八八番 一三一二四番 (代表)
東京都中央區日本橋久松町二〇
印刷所 富士興業株式會社